

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
学校教育目標「自ら考え、ともに伸びていく、心豊かな子どもを育てる」 ◎「規範意識の向上と学び合いの推進」 ①生きる力の基礎となる望ましい生活習慣の定着を図る。 ②自分を大切にし、友だちを思いやる心を育てるとともに、支え合う集団を育てる。 ③基礎的、基本的な知識、技能の習得を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ④家庭や地域、保幼小中の連携を密にし、その教育力を指導に生かす。 ○年間を通じての取り組み・あいさつ「進んであいさつ」・時間を守る「チャイムスタート」・そうじ「だまってそうじ」・聴く「目と心で話を聴く」	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 C 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 D 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 D 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 C 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
<全国> ・国語Aの漢字では全国平均を上回ったが、その他の問題は県平均を下回っている。 ・算数はABともどの問題においても県平均を下回っている。 ・国語では、「書くこと」の問題が県平均との差が大きい。(本校58.2% 県72.5%) ・「主述の関係」を問う文法問題では、主語と述語の関係が正しい文章を選んだり書いたりすることができていなかった。(本校18.4% 県33.6%) ・算数では、「数と計算」の問題が全国平均との差が大きい。(本校46.5% 県59.9%) ・特に割合の問題に課題がある。また、対応数直線の理解ができていない。 <県学テ(3～5年)> ・同一集団における経年変化では、4年・5年とも標準スコアの向上が見られた。特に、4年は著しく伸びた。 ・3年と5年は算数において全国平均を下回っている問題が多くある。(3年…29/36問)(5年…22/37問) ・3年は国語で全国平均を上回っているが、算数では全体的に正解率が低く全国平均を下回っている。 ・4年は国語算数ともに全国平均を上回っている。 ・5年は国語算数ともに全国平均を下回っており、算数では特に「がい数での表し方」「図形の性質」「角度の計算」の正解率が低かった。 <本校の傾向> ・本校では全体的に国語よりも算数に課題が見られる。全国平均との差が大きい問題が学年によっては多く存在している。	<テレビ等の視聴時間(平日)> ○テレビ、ゲームなどの時間が県平均よりも長い。 <家庭学習の時間(平日)> ○1日当たりの学習時間が県平均より短い。予習復習などの自主学習を行ったりする児童の割合が少ない。 <読書時間(平日)> ○1日当たりの読書時間が短い。新聞を読む児童の割合が少ない。 ⇒読解力が低い結果との関わりがある。 <あいさつ・5年県調査より> ○あいさつをしている児童の割合は県平均より低い。

成果 課題

・漢字検定を全校で取り組むことで、漢字の読み書きが定着してきた。また、高野タイム(朝の活動)で新出漢字の練習や漢字テストを継続的に行い、習熟を図ることができた。今年度は校内研修で新出漢字の指導法を共有することができたのも効果的だった。 ・放課後の補充学習を週2回行い、家庭学習の習慣をつけることができた。今年度、2学期からは宿題だけではなく、復習プリントを進める補充学習も行っていく予定にしている。 ・学習規律(チャイムスタート、あいさつ、話し方、聞き方、姿勢)を徹底することで学習環境が整ってきた。 ・問題データベースを高野タイムや授業に活用し、習熟を図ることができた。 ・3年生以上には週末課題(理社プリントや学テ過去問)を出し、効果的な学習を行うことができた。	・放課後学習は参加者が増えたため、今まで通りの指導体制では継続がむずかしくなってきた。また、学習効果を上げるため、週1回補充学習を行うことにした。 ・学習規律は整いつつあるが、朝の学習時のチャイムスタートや授業中の姿勢などにはまだ課題がある。 ・問題データベースを高野タイムや授業などに活用しているが、前学年の問題に取り組む機会があまり設定できていない。 ・各学年で設定している家庭学習時間が達成できていない児童の割合が多い。また、予習復習に取り組めていない児童の割合も多い。
---	---

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
<授業改善> 問題解決型学習 高野小学学習スタンダード徹底	校内研修にて共通理解 2学期からさらに徹底	可能な限りどの授業でも実施 (学期末に達成度を学年団でチェック) 90%達成目標	自力解決の時間と考えを交流する時間の確保 めあて・まとめ・振り返り 書く活動(自力解決・振り返り等)を増やす					
<補充学習> 前学年にもどって復習 (計算、文法、長文読解)	2学期から実施	苦手領域を繰り返し復習 正解率90%以上目標	余剰時間を使って長文読解指導 週末課題として実施(計算、文法)					
家庭学習の定着と充実	宿題パーフェクト週間 (毎月第2週) ※パーフェクト週間に提出率確認	各クラス100%目標	宿題パーフェクト週間の設定 宿題提出率の確認(各学年団) 自主学習の定着					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○チャイムスタート・無言入場・だまってそうじを中心に、規律ある学校づくりをめざす。 ○小中間による授業公開、中学校の先生による出前授業、児童生徒の情報交換を行う。 ○中学校の定期テストに合わせ、メディアコントロール週間を設ける。	○6年生を対象に携帯・スマホの扱い方について参観日の授業や講演会で学習する。 ○PTAと連携して、朝ご飯、メディアコントロール、家庭学習時間確保の取組を行う。